

6

瀬戸内海や深海の動物たち： その驚くべき生態と人間活動との関係

海は地球の面積の約7割も占めているのに、わかっていることはほんの一握り。特に深海についてはまだまだ謎に包まれています。本講座では永年、瀬戸内海や深海の魚類、無脊椎動物の研究を精力的に行ってきた4名の教授陣によるとっておきの話を用意しています。身近な海の瀬戸内海は世界の海域の中でもずばぬけて生産性が高く、生きた化石カブトガニなども生息する生物多様性に富んだ海なのです。ここに生息して食用として馴染みのあるクロダイ、キュウセンは性転換します。一体なんのために？クロダイは時に人間にとって厄介な動物となることがあります。ミズクラゲなども大量発生して人間を困らせることもあります。実は大変重要な生態系での役割もあります。一方、これらの動物たちに人間の経済活動で様々な異変が生じている現状を紹介します。

会場	対面： 広島大学東広島キャンパス 生物生産学部C201講義室 オンライン： -
時間	①13:30～14:30 ②14:45～15:45
定員	対面： 100名 オンライン： -名
対象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	一次申込締切： 4/11(木) ※ 定員に達しなければ 6/28(金) (必着)まで先着順で受付

瀬戸内海の幸を支える山河森海のつながり

講師： 統合生命科学研究科 教授 長沼 毅

第1回

7/6(土)

①13:30～14:30

瀬戸内海は世界でもまれなほど生物生産性が高い海です。なぜでしょう？その理由は海だけを見てもわかりません。海と陸のつながり、すなわち瀬戸内海と中国山地のつながりにカギがあるのです。この講義では海洋学、地質学、生態学などを総動員して、この謎解きをします。

深海における驚異の生物生産

講師： 統合生命科学研究科 教授 長沼 毅

第2回

7/6(土)

②14:45～15:45

地球上の生物生産の根底にあるのは植物による光合成生産です。植物を草食動物が食べ、それを肉食動物が食べるという食物連鎖も光合成、すなわち太陽の恵みから始まります。では、暗黒の深海はどうでしょう。驚いたことに太陽の光がなくても深海に生きもののパラダイスができています。「暗黒の光合成」をキーワードに、その謎を解いていきましょう。

魚の教養学

講師： 統合生命科学研究科 教授 海野 徹也

第3回

7/13 (土)

①13:30~14:30

魚の不思議な生態や環境の話など、幅広い話題を提供させていただきます。また、瀬戸内を代表するクロダイを例に、温暖化やノリやマガキの食害問題など、魚をとりまく環境や人間活動について考えてみたいと思います。

のぞいてみよう性転換する魚たちの社会

講師： 統合生命科学研究科 教授 坂井 陽一

第4回

7/13 (土)

②14:45~15:45

性転換はおよそ450魚種にみられます。クロダイ、ギザミ、カンダイ、アコウ、トラハゼなど瀬戸内を代表する海の幸も性転換魚です。性転換はある社会に共通してみられます。性転換することの利点とは何なのでしょう。性転換はどのようなきっかけで行われ、どういうプロセスで変身するのでしょうか。魚という資源を守り育てる上で、また魚という水圏生物の魅力を堪能する上で、その柔軟な性表現の実態を理解することは欠かせません。この講義では、野外調査や実験を通じて解明されてきた「魚の性表現と社会」についてお話しします。

広島県にある海の至宝：「八チの干潟」とそこに棲む生物たち

講師： 瀬戸内CN国際共同研究センター 教授 大塚 攻

第5回

7/20 (土)

①13:30~14:30

広島県竹原市には生物多様性の点において奇跡のような河口干潟「八チの干潟」が存在します。ここには絶滅危惧I類に選定されている生きた化石「カブトガニ」を含む15種の海洋動物が生息し、さらには絶滅危惧II類に選定されているツクシガモが毎年のように渡来する干潟です。貝類、ゴカイなどの新種も見つかかり、研究教育にとってなくてはならない場所です。また、地元の環境学習の点でも活発に活用されています。しかし、開発の波に揉まれて様々な危機が迫っています。

クラゲは役に立つ生き物である！

講師： 瀬戸内CN国際共同研究センター 教授 大塚 攻

第6回

7/20 (土)

②14:45~15:45

クラゲは刺傷、漁業被害、大量発生で人間には厄介な動物というイメージがありますが、実は海洋生態系の中で極めて重要な役割があるのです。また、体成分が人間社会に色々と利用されている現実を紹介しましょう。

講座内容に関する
お問い合わせ先

生物学系総括支援室（学士課程担当）

電話： 082-424-7915

メール： sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp